

海津市地域公共交通会議

平成19年3月23日設置

調査事業の目的

海津市内の公共交通は、養老鉄道、名阪近鉄バス及び海津市コミュニティバス、タクシーにより構成されている。海津市コミュニティバスは合併前の路線形態を引き継いで若干の見直しを行い8路線で運行しているが、利用者数の少ない路線・バス停、便数への不満が多く、改善が必要である。また、海津市役所周辺を都市機能拠点とするまちづくりを進めており、これと連携した公共交通体制の整備が必要である。

このため、地域全体の公共交通の再編を目指して、「海津市公共交通計画」を策定する。

調査事業の概要

1. 地域特性、域内の公共交通の概要、問題点、実施経緯

海津市は、海津市役所周辺に公共施設や商業施設等が集積し、合わせて総合庁舎周辺等の市街地と農村集落地域で構成されている。現行の海津市コミュニティバスは、集落をくまなく経由するルートとなっているため、目的地までの所要時間が長く、運行便数も少ないため利用者は減少傾向にある。住民ニーズにあった利便性の高い公共交通とするため、再編が必要である。

2. 調査の主な内容

- ・実態調査(H25年度:市単独事業で住民アンケート調査、バス利用者OD調査・アンケート調査、課題を整理。H26年度:補助事業で養老鉄道利用者アンケート調査を実施)
- ・海津市公共交通計画を作成

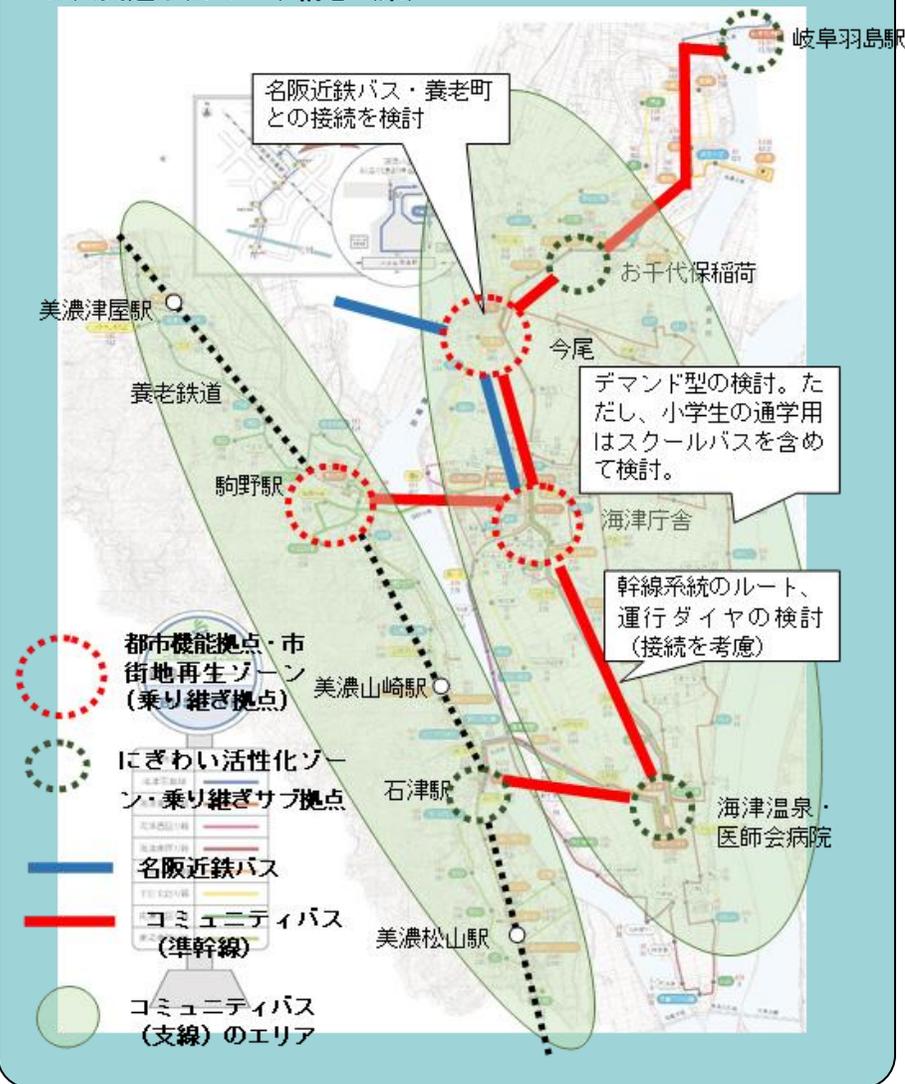
3. 協議会の開催状況

開催日	回	主な議論の概要
H25.12.5	第1回	調査の企画、市内公共交通の現状把握
H26.3.24	第2回	実態調査の結果報告、課題整理
H26.5.30	第3回	調査事業プロポーザル実施要領
H26.8.18	第4回	養老鉄道利用者実態調査の実施企画、海津市公共交通計画(素案)
H26.10.29	第5回	養老鉄道利用者実態調査結果、海津市公共交通実施計画(素案)
H27.1.16	第6回	住民意見交換会報告、海津市公共交通計画(案)、自己評価

4. 結果の概要

バスについては、定時定路線の幹線路線とデマンドによる支線交通に区分し、市内の養老鉄道、市外の名鉄新羽島駅・新幹線岐阜羽島駅との接続を図る。

公共交通ネットワーク構想(案)



調査結果に対する分析

バス利用実態調査(H25年度視単独事業)では、属性(小学生、高校生、高齢者等)別の利用実態(どの便にどこからどこまで利用しているか等)を把握し、利用の多い系統と区間を把握した。また、昼間便は少量かつ利用区間が分散していることを分析した。住民アンケート調査では、地域別、性別、年代別に集計し、地域や年代による違いを把握した。養老鉄道利用者アンケート調査では、鉄道とバスとの接続の要望が高いことを確認した。これらの分析は、幹線と支線に区分する再編案に反映した。

住民意見交換会を平成25年度と26年度の2回、それぞれ10地域で行った。平成25年度は、地域の問題点を把握し、課題整理につなげている。平成26年度は、公共交通再編(素案)を示し、素案に対する意見を把握し、海津市公共交通計画(案)の作成に反映している。

アンケートや意見交換会の実施においては、海津市としての考え方を示し、ワークショップ形式で意見をいただく等、活発に討議することができた。

調査結果に対する評価

上記の調査結果を踏まえ、市外への路線や利用の多いコミュニティバス路線は幹線公共交通として位置づけ、主に通勤・通学・買い物・通院・観光利用を想定したルート、便数とし、利用の少ない路線は、高齢者等の買い物・通院・温泉利用を目的にデマンド型交通を基本とするネットワーク計画(素案)に反映した。

住民意見交換会(10地域別)では、この素案の是非、様々な計画条件(幹線系統のルート・運行時間帯・便数・運賃、デマンド型交通の運行範囲・ゾーン区分・運賃)について、地域ごとの移動特性を反映した意見をいただいております、これを反映した「海津市公共交通計画(案)」を作成している。

また、海津市公共交通会議では、住民代表等から多くの議論をいただき、計画の作成に幅広い意見を反映することができた。

このように、様々な調査結果・会議での議論を通して、住民ニーズに配慮した計画を作成することができたと考える。

アピールポイント(特に工夫した点)

本調査事業及び昨年度の実態調査により、公共交通利用者と潜在的な利用者の意向を把握し、これを幹線系統と支線系統(デマンド型交通)に区分することに反映することができた。また、幹線系統については、バスのルート、バス停、便数に反映することができた。

住民意見交換会では、幹線系統に対する意見に加えてデマンド交通に対する理解を得ることができ、運行範囲(行き先)、ゾーン区分、運賃などに対する意見をもとに、素案の修正をすることができた。

本調査事業では、OD調査による利用実態、アンケート調査による統計的な分析に加えて、住民意見交換会による生活実態に根ざした意見を把握することを実施する等、住民意見の把握方法を工夫したことにより、計画内容に対する理解を得ることができたとともに、改善要望を十分に把握することもできた。また、参加者からは、公共交通に対する意識の向上が見られる発言などもあり、計画策定段階から住民の意見を把握する方法に成果があったと思われる。

調査事業をふまえた計画の策定、路線の見直しの方向性等

本調査事業を踏まえて、「海津市公共交通計画」を策定する。この計画は、地域公共交通網形成計画として位置づけることを想定している。

この計画を踏まえ、平成27年度には、海津市コミュニティバスを対象に生活交通ネットワーク計画(地域内フィーダー系統)を申請し、平成27年10月から再編運行を実施する予定である。